

銭函地区 ブロック別学校再編プランの 検討のために

この資料は、地区別懇談会で参加者間の活発な意見交換ができるようにという観点で作成したものです。

ブロックの概要

町名

張碓町、春香町、桂岡町、見晴町、星野町、銭函

通学区域から見た現在の学校配置

小学校 張碓小学校、桂岡小学校、銭函小学校

中学校 銭函中学校

町別学齢人口（27年度推計）

（人）

	小学生							中学生			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計	1年生	2年生	3年生	小計
張碓町	3	8	5	6	4	4	30	7	8	10	25
春香町	3	6	2	3	3	4	21	3	4	5	12
桂岡町	11	12	15	11	12	15	76	13	12	17	42
見晴町	1	2	5	2	2	7	19	2	4	8	14
星野町	10	6	12	11	10	7	56	15	11	12	38
銭函	26	25	41	24	34	44	194	37	50	51	138
計	54	59	80	57	65	81	396	77	89	103	269

小樽市小中学校再編計画では、学校再編に当たっては次のとおりに進めるとしました。（抜粋）

- ◆ 統合の時期は、学校施設の状況、対象校の位置関係、統合前の児童生徒の交流期間等を総合的に考慮し、地区実施計画を策定し決めていきます。その際、同一地区内で、段階的な実施となる場合は、児童生徒が統廃合を繰り返して経験することのないような間隔とします。
- ◆ 統合学校は、原則として、既存の学校敷地、校舎を活用していくこととし、校舎が近年、改修・建て替えをしている場合を除き、大規模改修・建て替え時に合わせた施設設備の充実を図ることを基本とします。
- ◆ 統合学校の場所は、統合後の通学区域内のバランスと、校地・校舎の状況や通学上の安全などの条件を勘案して決定します。その際には、交通の利便性や冬期における周辺の除雪体制など、学校立地の条件としてより良好な環境であるかの観点も考慮します。
- ◆ 特別支援学級などについては、統合する時点での学級を確保し、統合学校に引き続き設置します。また、支援を必要とする児童生徒が新たに入学する場合は、原則として再編後の校区内の学校に就学できるよう配慮します。
- ◆ 学校再編に伴い、在学中に統合することになる学校への入学予定者については、再編後の新たな通学区域や通学距離を考慮した特例を、また、統合の時点での在學生についても、交友関係や通学距離などを考慮した特例を設け、指定校変更の承認をするなど学校指定に関する弾力的な運用を行います。

学校の概要

各項目の数値は平成 21 年度現在のものです。

		張碓小学校	桂岡小学校	銭函小学校	銭函中学校
学校の規模等					
児童数または生徒数	通常	64 人	111 人	387 人	292 人
	特別支援	3 人	3 人	4 人	4 人
学級数	通常	5 学級	6 学級	12 学級	9 学級
	特別支援	1 学級	2 学級	2 学級	3 学級
開校年月		明治 9 年 8 月	昭和 52 年 4 月	明治 14 年 2 月	昭和 22 年 5 月
学校施設					
現校舎の建築年 (面積)		平 2 (1452 m ²)	昭 52 (2179 m ²) 昭 54 (1179 m ²) 昭 56 (359 m ²)	平元 (3593 m ²)	昭 54 (1888 m ²) 昭 55 (1920 m ²) 昭 59 (512 m ²)
耐震化優先度 (校舎)			③-1		平成 22 年度耐震補強工事実施
保有教室の内訳 (普通教室には学級増で転用想定も含む)		普通 6 教室	普通 12 教室	普通 14 教室	普通 14 教室
		特別 3 教室	特別 8 教室	特別 5 教室	特別 13 教室
体育館面積	m ²	841 m ²	972 m ²	1,114 m ²	996 m ²
グラウンド実面積	m ²	3,600 m ²	9,000 m ²	7,600 m ²	11,500 m ²
通学環境					
隣接校との距離 (km)		桂岡小 (4.1) 銭函小 (4.1) 朝里小 (6.9)	銭函小 (2.5) 張碓小 (4.1)	桂岡小 (2.5) 張碓小 (4.1)	朝里中 (9.9)
在校生の最長通学距離 (km)		春香町 (3.5)	銭函 1 (1.7)	星野町 (3.0)	春香町 (4.5)
最寄りのバス停		張碓小学校前 (150m)	どんぐり公園 (500m)	銭函中学校前 (350m)	銭函中学校前 (170m)
通学時バス利用者		43 人		162 人	70 人
進学する中学校及び校区の小中学校		銭函中	銭函中	銭函中	張碓小 桂岡小 銭函小
その他					
ブロック内他校と比較した特記事項		複式編制	プール設置		

統合の組合せの考え方

学校再編計画で示したこのブロックの想定学校数は小学校、中学校ともに1校で、小学校はすべての学校が再編の対象となります。

ブロック内の小学校は張碓小学校、桂岡小学校、銭函小学校の3校ありますので3校が1校となります。

このブロックは地理的に国道5号線に沿って東西に長く、現状では張碓小学校、銭函小学校で通学にバスを利用する児童がいます。

隣接する朝里ブロックとは、市街化調整区域で分断されていてブロックの境界に面する張碓小学校と朝里小学校との距離は6.9キロメートルあります。

小学校のプランはブロック内の3校の統合とし、地区ブロック内での学校再編について、それぞれの学校を統合校の位置として検討したパターンを示します。

中学校は、小学校と同様に地理的な特徴から銭函中学校と朝里中学校の距離は9.9キロメートルに及ぶため隣接する地区との通学区域の調整は行いません。

小学校のプラン

統合新校の通学区域は3つの学校の全域となります。

新しい通学区域	統合校の位置	パターン
<ul style="list-style-type: none"> ・張碓小の校区全域 ・桂岡小の校区全域 ・銭函小の校区全域 	現在の張碓小	①
	現在の桂岡小	②
	現在の銭函小	③

パターン	27年度児童数 と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
① (張碓小)	396人 13学級	星野町 23 6.8km	増築が必要
② (桂岡小)		星野町 23 5.0km	耐震化工事が必要
③ (銭函小)		張碓町 75 4.7km	改修工事が必要

27年度推計学年別内訳

(人)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	54	59	80	57	65	81	396
学級数	2	2	2	2	2	3	13

小学校のプランから見た場合の検討結果

の学校規模等から 検討(H27)	<ul style="list-style-type: none">・プランでは、児童数396人で13学級となります。なお、1学級当たりの平均人数は30.5人となります。
通学距離からの検討	<ul style="list-style-type: none">・現在の最長通学距離は、張碓小3.5km、桂岡小1.7km、銭函小3.0kmです。張碓小では大半の児童が通学費助成の対象となっており、銭函小ではスクールバスを運行しています。・統合校の位置がいずれの学校の場合も、最遠地点からの概算距離は4.7km～6.8kmと2kmを超えるため、現在行っているバス通学などの通学支援が必要です。
施設面からの検討	<ul style="list-style-type: none">・張碓小は一番新しく新耐震基準で建てられた校舎と体育館を持つ学校ですが、学校規模に見合う普通教室を確保するためには、増築が必要です。・桂岡小は、校舎及びグラウンドの面積が一番広く、このブロックの学校では唯一プールを備えています。校舎等は築33年が経過しており、耐震工事が必要となります。・銭函小の校舎と体育館は平成元年に新耐震基準で建てられています。

- ◆ 施設面からの検討では耐震基準を満たす銭函小学校が優位です。通学の面から考慮すれば交通アクセスや学齢人口の居住分布から銭函小学校が優位となります。
- ◆ 以上のことから、銭函小学校を統合校の位置とし、校舎は改修して使用することが適切です。
- ◆ 再編によりバスを利用して通学する児童の数は増える見込みです。通学支援の方法については実施計画策定の段階で検討を行います。

銭函地区ブロックの中学校について

- ◆ 学校再編計画ではこのブロックの中学校は1校としています。

通学区域	統合校の位置
・ 銭函中の校区全域	銭函中学校

27年度生徒数 と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
269人 9学級	春香町 151 4.5km	耐震化工事(平成22年度実施)

27年度推計学年別内訳 (人)

	1年	2年	3年	計
生徒数	77	89	103	269
学級数	3	3	3	9

※1学級当たりの平均人数は29.9人